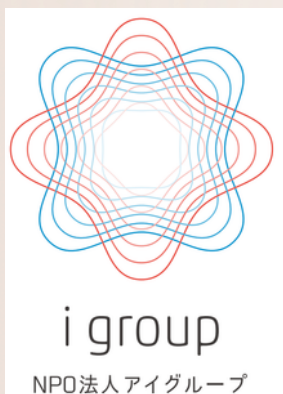


2026.7月号

一人ひとりの一遇を照らし続ける



igroup 25

communication



七夕

熊本 庵

将来の夢や日々の小さな願い 🌸

7月7日の七夕の日、ホームでは笹の葉に色とりどりの短冊を飾り、季節の行事を楽しみました。"将来の夢"や"日々の小さな願い"など、子どもたちが思い思いに綴った短冊が嬉しそうに揺れる様子は、ホーム全体をパッと明るくしてくれました。子どもたちの純粋な願い事に、私たち職員もたくさんの元気と温かい気持ちをもらった一日となりました。これからもこうした行事を大切にしながら、みんなが安心して笑顔で過ごせる環境を育ててまいります 🌟



福岡 permit

七夕会 🌟

七夕に向けて、児童たちと一緒に短冊や折り紙の飾りを制作しました。「好きな歌手のライブに当たりますように」「大会で勝てますように」など、それぞれが思い思いの願い事を短冊に書き、色とりどりの飾りとともに笹の葉へ飾り付けを行いました。完成した笹はとても華やかになり、季節を感じられる温かい雰囲気となりました。夕食は、ちらし寿司や唐揚げをはじめ、七夕をイメージしたゼリーなど、児童たちの好きなメニューを囲みながら楽しい時間を過ごしました。季節の行事を通して笑顔あふれるひとときとなり、児童同士の交流も見られ交流も深まる、思い出に残る七夕会となりました。



福岡 小倉北

七夕イベント ✨

七夕イベントでは、それぞれ願い事を短冊に書き、笹に飾り付けをしました。日々の小さな願いなど、一人一人の思いが込められた短冊が並び、季節を感じられる楽しい時間となりました。七夕の食事として唐揚げとロールケーキを用意すると、「おいしそう!」と笑顔で喜ぶ様子が見られ、イベントを楽しみにしている様子もうかがえました。短冊を書きながら自然と会話も弾み、入居児童同士が交流を深める良い機会となりました。今後も季節の行事を大切にしながら、思い出に残る時間を過ごしていきたいと思います。



七夕

福岡 えん

短冊に願いを込めて 🌸

七夕を迎え、ホームでも季節の行事を楽しみました。職員が準備した笹に、子どもたちと職員がそれぞれの願い事を書いた短冊を飾り、一人ひとりの思いが込められた笹飾りがホームを彩りました。夕食は七夕にちなんだ行事食を囲み、季節を感じながら笑顔あふれるひとときを過ごしました。えんでは、季節の行事や行事食を大切にしています。子どもたちが日本の四季や伝統に触れ、楽しい思い出として心に残るよう、これからも一つひとつの行事を大切にしていきたいと思います。



福岡 テンポラリー

七夕に願いを込めて 🙏

梅雨明けとともに暑さが厳しくなってきました。今年の七夕は、週に一度の面談を兼ねて、児童と買い物へ出かけ、メニューを考えるとこから始めました。食材を選びながら献立や盛り付けを相談し、一緒に調理を進めました。細かい作業が得意な子だったため、そうめんの飾りを切ったり巻いたりする工程を担当してもらいました。包丁の扱いも以前より上達し、一つひとつ丁寧に調理する姿から成長を感じました。彩り豊かな七夕そうめんが完成し、季節の行事を楽しむことができました 🌈
みんなの願いが叶い、笑顔あふれる毎日になりますように。



長崎 inn

大切な人を想う七夕 ★

準備した笹の木に折り紙で作った色鮮やかな飾りつけを児童と一緒に行いました。短冊書きでは大切な人の大切な人の幸せを願うものや自身の夢や想いを記入し、当日は星をモチーフした夕食を「可愛い」と喜んで食べました。七夕の行事は季節を感じるだけではなく大切な誰かを想ったり、自分自身と向き合う時間となり、今考えている事や将来について、気持ちを共有する事が出来て良かったです。innで過ごす時間には限りがあります。だからこそ、一緒に過ごせるかけがえのない時間をこれからも大切にしていきたいと感じた行事となりました。



入居者インタビュー

熊本 テンポラリーくまもと

一歩ずつ、自分らしく✨

5月から入所し、2ヶ月が経ちました。地元や友達から離れての生活はとても不安でしたが、初日から職員に優しく声をかけてくださり、今も一緒にこれからのことを考えてくださってます。まだ土地勘がなく外出は不安ですが、買い物やスポッチャにも連れてっていただきました。5月末のイベントではジャガイモ掘りに参加し、アルバイトりをいただけて嬉しかったです。7月からはアルバイトも始まりました。安心できる環境の中で、自分らしく自立に向けて一歩ずつ頑張っていきたいです。



熊本 テンポラリーくまもと 2号室

支えられて歩んだ4年間🌱

私が施設に入所して約4年が経ちました。入所当初は人見知りが強く、職員に話しかける事も相談することも苦手でした。しかし、いつも優しく寄り添い、焦らず関わってくださったおかげで、少しずつ自分の気持ちを伝えられるようになりました。生活面だけでなく学校や進路も支えていただき、高校卒業後は専門学校で保育を学んでいます。職員の温かい関わりは私の目標です。これからは感謝の気持ちを忘れず、相手に寄り添い、子どもたちや困っている人に安心を届けられる大人になりたいと思っています。



福岡 permit

できるようになったこと😊

学校へ行くように職員が継続して声をかけてくれたことで、遅刻が少なくなり、登校する習慣が身についてきました。

また ほかの児童と関わる機会が増えコミュニケーションを取ることで周囲への気配りができるようになり、身の回りのことにも意識を向けられるようになって 入浴などの生活習慣が定着してきました。

自分で洗濯ができるようになるなど、日常生活に必要な力も身につき、以前より自立した生活を送れるようになりました。これらの積み重ねにより、生活全体が安定し、成長につながっていると感じています。

福岡 permit

学んだこと🍀

施設での生活を通して、人との関わり方が以前より身についたと感じています。入所当初は自分から話しかけることや気持ちを伝えることが苦手でしたが、職員や他の利用者と日々関わる中で、相手の気持ちを考えながらコミュニケーションを取れるようになりました😊

また、困ったときには一人で抱え込まず相談することや、相手の意見を受け止めることも少しずつできるようになりました。これからも相手を思いやる気持ちを大切にしながら、人との良い関係を築いていきたいと思います。

入居者インタビュー

福岡 permit

学んだこと📖✍️

permitに入ることができるようになったことは、アルバイトです。今は飲食店と塾講師の二つのアルバイトを掛け持ちしながら、大学生活との両立を頑張っています。やることべきことが思ったより多く、毎日が忙しくてたいへんです。ですが、学業を疎かにすることなく、時間の使い方を工夫して一生懸命に仕事に取り組んでいます。アルバイトを通して多くの経験をし、責任感やコミュニケーション能力などが身につけられました。自分自身の成長にもつながっていると感じています。



福岡 permit

共同生活を通して🏠

共同生活を通して、周囲の人の様子や気持ちを考えながら行動し、協調性や社会性を身につけることができました。また、アルバイトを通じて自分で働いてお金を稼ぐ経験を積み、責任感や働くことの大切さを学びました。

さらに、稼いだお金を自分で管理し、計画的に貯金することで、金銭管理の力も身につきました。これらの経験を通して、自立した生活に必要な力を少しずつ養うことができたと感じています。

これからも自立した生活を続けていきたいと思っています。



福岡 えん

私ができるようになったこと👏

私はえんでの生活を通して人とのコミュニケーション、そして自分で考えて自ら行動する力を身につけることができました。

1つ目は人とのコミュニケーションです。私は人見知りがありコミュニケーションがあまり取れませんでした。しかしえんに来て他の児童や職員さんと話していると抵抗感は無くなりました。そしてバイト探しの時に接客に挑戦してみたいと思い不安感を抱えながら実際やっていると不安感があり毎日のように相談していました。職員さんから沢山アドバイスを貰い今ではお客様とコミュニケーションを取り楽しくバイトができるようになりました。

2つ目は自分で考えて自ら行動する力です。私は周りを見る癖がついていてこれをやったら周りに迷惑がかかるかなと考えすぎて自分から行動できませんでした。しかし今では私の意見を尊重しつつアドバイスをくれる職員さんに囲まれて周りを見る癖は悪いことではない、自ら行動することで迷惑になる事はあまりないと学びました。

最後に私は職員さんの協力、アドバイスがあったお陰で成長出来ました。感謝しかありません。ありがとうございます。

退居者インタビュー

熊本 テンポラリーくまもと

テンポラリーに来て良かったと思うこと 🍀

入所してすぐは、年上の児童ばかりで、おとなしくて学校も行ってたけど、学校外、ホーム外の人と遊ぶ事が少しずつ増え、ホームに帰らない時もあった。何度も声かけてもらっても聞く耳持たなくて、遊びまくっていた。そんな中、妊娠がわかり、不安な時に真剣に向き合ってくれたのは、ホームの職員。理事長には部屋まで来てもらって、怒られて、飛び起きたこともあったけど、その時の自分を振り返ると、怒られて当然。今ならわかる。ホーム職員との関わりで、初めて期待されていることに、気づくことができた。その期待に裏切ってはいけないと思うようになった。「心配している」の意味を本当に分からなくて、ホーム職員に尋ねたことがある。ホーム職員の気持ちを聞いてやっと感じる事ができた。今生後7ヶ月の我が子を抱くと可愛くて仕方がない。そんな幸せの中でも、育児に悩んだり、他の人と比べてしまったり、どうしようもない時もある。そんな時は迷わずホームに連絡して、話を聞いてもらったり、カフェに行ったり、時にはドライブに連れ出してもらう事もある。ホームに帰ると安心感がある、本当に出会えて良かった。そして今思うのは、私自身も、我が子にとってホームのような存在になりたい。これから我が子と二人で、周りの人に助けをもらいながら、一緒に成長していきたい。

熊本 テンポラリーくまもと 2号室

一人暮らしで気づいたこと 💡

私はホームに3ヶ月ほどいました。就職が決まって一人暮らしをするためにホームを出ましたが、私は大きな壁にぶち当たりました。一人暮らしをするにあたって、貯金の仕方やお金の使い方はおしえてもらっていましたが仕事の続け方は教えてもらってませんでした。モチベーションの保ち方や、苦手な人の渡り合う術。それらをもっと聞いておけば良かったと思いました。自分が出来ること、出来ない事。得意なことや苦手なことの整理はしておくべきだったと気づきました。



熊本 庵

1歩ずつ自分らしく ✨

ホームを退居して4カ月がたちました。最初は一人でやっていけるか不安でしたが、仕事にも少しずつ慣れ、毎日頑張っています。一人暮らしでは家賃や光熱費の支払い、食事や掃除など、すべて自分でしなければならず大変ですが、その分できることも増え、自分の成長を感じています。仕事で悩んだ時にはホームに顔を出し、職員さんに話を聞いてもらうこともあります。支えてくれる人がいることを心強く感じています。ホームで過ごした日々への感謝を忘れず、これからも一歩ずつ自分らしく歩んでいきたいと思います。



自立支援担当職員より

今年の4月から自立支援担当職員を務めています。今年は引き継ぎも兼ねて、多くの退居児童と会って話す機会が増えています。

5月には県外に住む退居児童への訪問、6月に長崎市内で行われた食品などの配布を行う催しに退居児童を誘い、4名が参加してくれました。

また、引っ越しをする児童もいたため、とも適度に連絡を取るなどはしていますが、直接会うと児童たちの表情も見ながら話ができるため、現在の児童たちの生活の状況などへの理解がより深まると感じています。

私自身、入職してから10ヶ月という事もあり、初対面の退居児童が多いですが明るく、気さくに話ししてくれるため、私も少しずつ状況や困り感などを聞くことが出来ています。

今後は、7月末と8月末の2回に分けて退居児童と職員の食事会を開催するほか、9月には成人式の前撮り、1月には退居児童・入居児童・職員での食事会を開催しています。

児童たちがホームを退居してから今日までで職員も変わっているため、支援をしていく上で、児童と関係を築くというのがむずかしいと感じることがあります。

退居児童たちもホームに相談したい、遊びに行きたいなどの想いがあっても私を含め知らない職員ばかりだと、どうしたら良いか分からないと思うことでしょう。

退居した児童とホームの繋がりを絶やさないためにも今年の食事会のようにお互いが顔を合わせ、お互いを知る機会を設けることで、児童たちがさまざま職員へ安心して気軽に連絡したり、対面で相談したりできる環境を整えることが、今最も大切なことだと考えています。

繋がりを強くすることでホームが児童たちにとっての安心材料となり、また職員と話したいと思って欲しいと考えています。

他の職員の力も借りながら、児童たちの声を直接聞き、児童が安心して生活して生活できるような支援を目標とし、成長していきたいです。



個別対応職員より

個別対応職員の役割として、個別の対応が必要な児童への1対1の対応を行なっています。一人一人必要な支援が異なり、対人関係や就学、就労、金銭面、体調面、生活面など児童が必要とする支援を児童と一緒に計画をたて取り組んでいます。

対人関係が苦手な児童に対し、無理に会話を促さず本人のペースを意識しながら安心できる環境作りと少人数からの関わりや話題の提供、イベント参加を促し、話す場を増やししながら少しずつ成功体験を積んでいます。

継続した就労が出来ない児童へは、働けなかったという結果だけを見るのではなく振り返りを行いながら原因を一緒に整理し、安定した就労ができるよう他機関への訪問や職場見学、体験を行いながら原因を一緒に整理し、安定した就労ができるよう他機関への訪問や職場見学、体験を行いながら自分に合った働き方を見つけています。就学支援では、登校が難しい児童へは不安や困り事に寄り添いながら登校する事を目標とするのではなく、本児に合った学び方を見つけながら関係機関とも連携を取っています。

学習支援では、1対1で課題に取り組みできなかったことよりできたことに目を向け、自信に繋がるよう声かけを行い、本児と学習計画を一緒に立てて取り組んでいます。

金銭管理が難しい児童へは、お小遣い帳での金銭管理やお金の使い方の研修参加を促し、週ごとに収支の確認と振り返りを行い、一緒に必要な出費や退居後の生活に必要な収支を理解し計画的な金銭管理ができるよう支援しています。

ひきこもり傾向がある児童へは、無理に外へ出る事よりも安心できる関係を築き、本児のペースで社会とのつながりを回復できるよう、存在を認めながら信頼関係を築き、安心できる居場所作りと小さな成功体験を積み社会との関わりを増やしています。

個別での支援が必要な児童はそれぞれ抱える課題や必要とする支援が異なります。今後も、一人一人の思いやペースを尊重し、それぞれの課題に寄り添いながら、小さな成功体験を積み重ね、自信と自立につながる支援を継続していきます。



総会



6月29日に定期総会を開催しました。

毎年講演会も開催していましたが、今年度は総会・懇親会のみで開催しています。

毎年参加者が増えて80人の方に参加していただきました。

懇親会は1／3は入居者や退居者、またそのパートナーやご家族にもご参加していただきました。

総会では事業報告と今期予算（事業計画）について、各ホーム長から発表していただきました。

今期は役員選任もあり、新たに4人の方に就任していただくことが承認されました。

当法人は児童福祉分野以外の活動もあり、特に地域へ向けた活動を拡大しています。

活動に取り組んでいただいている職員様も100人を超えて、本社機能強化の必要性もあり役員増大を行いました。

また今期新たな事業として、不動産賃貸業、駐車場の経営も追加しています。

退居後の支援に必要な事業として活動をしていく考えです。

私たちの事業の目的は、救済支援が必要な方に対して広く対象者の雇用の創造と確保、福祉の増進等に寄与することを目的としています。

それを実現するための活動を今後も続けていきます。

懇親会では歓談の時間にしました。

日頃から入居者・退居者は面識はありますが、パートナーやご家族とすごす様子を知ることができて新たな気づきもありました。

退居者はあまり連絡がない子も参加していただいて、元気そうな様子が確認できて安心しました。

会場の時間が足りないくらい各テーブルが盛り上っていて会場も若干延長して利用させていただきました。

毎年参加者が増えていて楽しみな懇親会になっています。

来期は10周年を迎えますが特別なことは企画せずに今年のように歓談の時間を大切に開催したいと考えています。



総会



法人内監査

法人内監査で、日々の支援を見える形に

昨年度発足した法人内監査検討会で、法人内10ホームを訪問しました。

アイグループの各ホームは、九州内の県をまたいで運営しています。そのため、所在地によって監査を行う行政が異なり、それぞれ求められる基準にも違いがあります。そのため、各自治体の基準をもとに、書類や運用状況を一つひとつ確認しました。

監査というと、不備を見つけるためのものという印象を持たれがちですが、法人内監査で大切にしたいのは、スタッフが子どもたちのために日々積み重ねている支援を、誰が見ても分かる形にすることです。丁寧な支援も、「普段から行っています」という言葉だけでは十分に伝わりません。記録や仕組みとして残すことで、スタッフが積み重ねてきた実践が伝わり、振り返りや次の支援にも生かされていくのだと感じました。

監査を通して改めて感じたのは、各ホームのスタッフが子どもたち一人ひとりと真摯に向き合い、日々悩みながら支援を続けているということです。福祉の支援には一つの正解があるわけではありません。手を差し伸べることも、あえて見守ることも、子どもたちの成長を願う支援です。その判断には知識や経験だけでなく、忍耐、そして一人で抱え込まずチームで支え合う力が欠かせません。監査を行う立場になったからこそ、現場で積み重ねられている努力の重みを改めて実感しました。

また、法人内監査には、各ホームの良い取り組みや工夫を共有し合えるという大きな意義があります。さらに、複数の自治体の監査基準に触れることで、多様な視点を法人全体で共有し、支援や業務の進め方をより良いものへと見直す機会にもなります。監査で見えてきたことを業務の整理や仕組みづくりにも生かし、スタッフが安心して働き、子どもたちと向き合う時間をより大切にできる環境づくりにつなげていければと考えています。監査が、スタッフの日々の実践を支え、その積み重ねを形として残し、各ホームが互いに学び合いながら、子どもたちへのより良い支援につながる一助となることを願っています。



Bloom cafe 新メニュー



Bloom Cafe 新商品のお知らせ

Bloom Cafeでは、このたび新メニューが仲間入りしました。

サクサク食感のクロワッサンに、旬のフルーツとたっぷりのクリームをサンドした「季節のフルーツクロワッサン」。ただ今の季節はチェリーを使用しています。

チョコソースが香る見た目にも華やかな一品をご用意しています。また、あんことバターを贅沢に挟んだ「あんバタークロワッサン」は、ほどよい塩味と優しい甘さが絶妙に調和し、幅広い世代におすすめです。

ランチタイムには、濃厚でクリーミーなレモンクリームリゾットも新登場。チーズのコクとやさしい味わいが広がり、最後のひと口まで楽しめる満足感のあるメニューです。

さらに、暑い季節にぴったりのクリームソーダもご用意しました。爽やかなソーダに、なめらかなソフトクリームを浮かべた、どこか懐かしく写真映えもする人気のドリンクです。

Bloom Cafeでは、お食事はもちろん、カフェタイムもゆっくり楽しんでいただけるよう、一品一品心を込めてご提供しています。ご家族やご友人とのひととき、お一人でのくつろぎ時間にもぜひご利用ください。

季節限定の商品もございますので、この機会にぜひBloom Cafeへお立ち寄りください。皆さまのご来店をスタッフ一同、心よりお待ちしております。



春日居場所づくり



春日市 こども居場所・居住支援🏠

令和8年4月より、アイグループでは「こどもの未来応援基金」という助成金を活用し地域支援をおこなっています。さまざまな事情により家庭で安心して生活することが難しい若者や、人とのつながりを失い孤立する若者を地域で支えることを目的としています。

近年、家庭内の問題や経済的困窮、進学や就職をきっかけとした環境の変化、人間関係の悩みなど、さまざまな理由から安心して過ごせる場所を失う若者が増えています。相談できる相手がいないまま不安を抱え、一人で問題を抱え込んでしまうケースも少なくありません。

そのような状況にある若者が、「困ったときには相談できる」「安心して過ごせる場所がある」と感じられる地域づくりが必要だと考えています。

この4月から「居住」支援開始し、3名の方の利用につなげることができました。

居住支援では、18歳から29歳までの若者の受け入れをします。受け入れの対象者として、社会的養護の経験がなく制度を利用することが難しい方を対象にしています。住まいを提供するだけでなく、一人ひとりの状況や意向を確認しながら、福祉制度の利用、関係機関との連携など、自立に向けた支援を行っています。利用期間中は、利用者が自分自身の力を発揮し、自信を持って次の一步を踏み出せるよう、スタッフが寄り添いながら伴走していきます。

若者にとって本当に必要なものは、住まいだけではなく、「自分のことを気にかけてくれる大人がいる」「困ったときには相談できる場所がある」という安心感だと考えています。そうした安心感は、将来への希望や自立への意欲につながる大切な土台になります。一人ひとりが自分らしい人生を歩んでいけるよう、温かな関わりを大切にしながら支援を続けていきます。

今後もアイグループは、地域の皆さまや関係機関との連携を大にし、困難を抱える若者が安心して暮らし、自分らしい未来を描ける地域づくりに取り組み、一人でも多くの若者が「ここがあってよかった」と感じられる支援を目指していきます。





応援してくださる皆様へ

寄付のご案内

私たちの活動は、多くの方々の温かいご支援に支えられています。

より多くの若者たちが安心して暮らせる環境を整えるために、皆様からのご寄付をお願いしております。ぜひ応援をよろしくお願いいたします。

♡ 進捗や日々の活動の様子はInstagramでも随時更新していきますので、ぜひチェックしていただくと嬉しいです。

Web



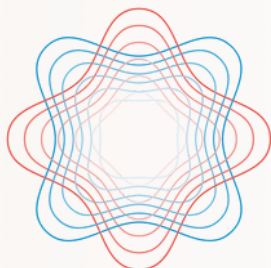
アイグループのホームページはこちらからご覧いただけます。

SNS



公式Instagramは、こちらから。ぜひ、のぞいてみてくださいね！

Contact



i group

NPO法人アイグループ



092-710-0268

対応可能時間 (平日9:00~18:00)



info@npo-aig.jp



www.npo-aig.jp